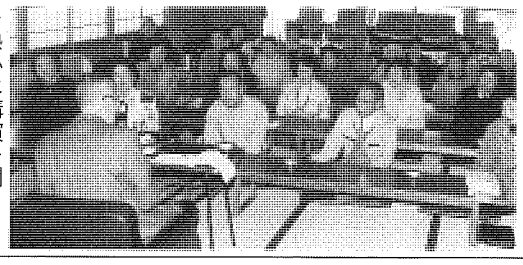
片貝新聞

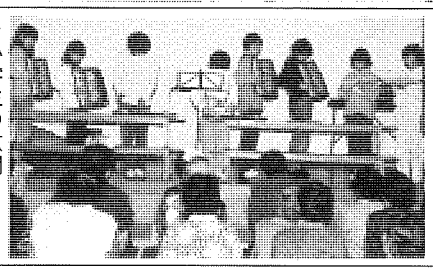
発行所
片貝新聞社
〒947-01
小千谷市片貝町10367-4
TEL・FAX 0258-84-3246
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱
題字　黒崎敬淙氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

小学生の慰問や講演会で充実
デイホームかたかい順調
5月からは生花教室計画

高齢者の生き甲斐対策の一環として、介護を必要としない比較的元気な高齢者が、楽しく集い語らい合う場としての「デイホームかたかい」は、市内では唯一の施設として昨年10月15日から永寿荘でスタート。もうすぐ半年になろうとしているが、小学生の慰問を受けたり、講演会を開くなど徐々に活動の幅を広げており、充実を図っている。


▶熱心に講演を聞く


▶小学生の慰問

登録者は411名で毎月二百数十名の利用者を数え、利用率は約60％。しかし男性の利用者がやや少数で、ここでも〝女性上位〟。本来の目的のひとつである一人暮し老人の利用が少ないことも今後の課題のひとつとなっている。

利用率アップとより充実した内容にするために、各種企画も実施している。去る2月15日には丸山太四郎市老人クラブ連合会々長による講演会を開催。丸山会長は寝たきり老人、痴呆性老人が増加傾向にあることなどに触れながら、老人問題を中心に福祉の重要性を参加者に分かりやすく説明していた。

3月1日午後1時半からは、片貝小学校音楽部の児童25名が楽器を持って慰問。児童等は3班に分かれ「魔女の宅急便」「となりのトトロ」「ルパン3世のテーマ」などを披露。老人達は大喜びだった。児童代表は「別の曲を練習してまた来ます」と約束、世代間交流を図った。

新たな企画としては5月から補助員である大塚申子さん（一之町）を講師に「生花教室」を開催予定。自宅の庭の花を持ち寄っての教室で、登録会員以外の参加も呼びかけることにしている。

地域の住民のバックアップもある。スタート当時は秋野菜のプレゼントがかなりあり、みそ汁サービスの具に利用し大助かりだったとか。

浅田宏会長は「市はデイホームかたかいの実績を見て市全体に普及させたい意向とのこと。様々な計画を実施して、3年後も継続されるよう努力している」と語っていた。

主張

活力ある町に

昨年は多くの失敗者を出した高校受験も、先生方の指導宜しきを得、また生徒自身の奮起もあったようで、今年の片貝中学校は一転して一〇〇％合格という、輝やかしい成果をあげ関係者をホッとさせている。

このところ小・中学校ともご多分に漏れず少子化の影響で、かっての一クラスの人数がいまや一学年というありさまで、この状態が続けばそう遠くない将来、片貝まつりをはじめとする町の諸行事が成り立たなくなる恐れすらある。

それと反比例するかのように逆に高齢化はどんどん進み、少しでも条件の良い所に住みたいという若い人達の願望や、親とは離れ若い夫婦だけの生活を求める風潮もあって、片貝でも老夫婦二人暮らしという世帯も目立つようになってきた。従って災害などの緊急時生命の危険すら伴うこともあり、かって大家族時代には考えられなかった現象が起きている。

現在全国的な傾向として各業種とも従事者の高齢化が進み、俗に農業六十歳、小売業五十歳、工場四十歳などといわれ、仮にこのまま十年経てばそれぞれ年齢が十歳加わるわけで、これに少子化が加算されると、何商売にかぎらず成り立たなくなり、廃業に追いこまれることになりかねない。このままにしておけば、高齢化と少子化で町の人口も激減し、町の存在そのものがおかしくなる。そうなってからでは手の施しようがない。それを何とか阻止しようと各市町村や自主団体が躍起になって、地域興しや活性化に取り組んでいるわけでただ手をこまぬいているだけでは解決しない。

幸い片貝でもそうした機運が見えはじめ、一昨年発足したグリーンパークス水沢や、本年動き出す片貝城址の芝植え等環境を考慮した活動、かたかい組、リサイクル片貝、デイホームかたかい等のボランティア活動など地道な活動を展開しており、徐々に成果が現れてくるものと期待している。

大勢の町民の注目であった佐藤邸跡地の問題も、協議会が中心となって動き出し今年半ばくらいまでに結論を出し、市に要請を行うようで、着実に一歩一歩前進していることは喜ばしいことだ。

ここで町民に望みたいことは、自分がやらなくても誰かがやってくれるだろうとか、協議会にまかせておけばいいとか、自分の考えと違うからオラ知らない。といった、他人まかせの考えは止めて、ボランティアでも何でもいいが、自分は何をして協力できるのかを真剣に考えてほしい。

片貝は天災もなく住環境も決して悪いとはいえない。便利がいいかといえばそうとはいい難いがその点山紫水明にも恵まれ、自然環境も良く住み易く、人間関係も良いということになれば申し分ない。

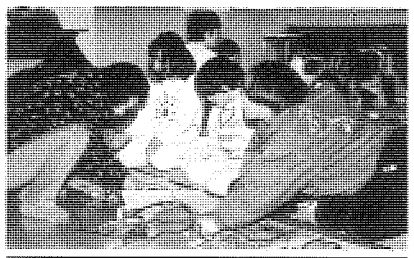
そういう町にするよう積極的に取り組む姿勢が片貝を住み良くもし、また活性化につながるものと思う。お互い知恵と力を出し合って町づくりに努めたいものだ。

カリンバ作りは楽しいな
アフリカ楽器の珍しい音色

アフリカの楽器カリンバを作る教室が、3月22日午前10時からと午後1時半からの2回、片貝公民館で開催された。

カリンバは掌に乗せて演奏出来る程度の小さな楽器で、独特の音色をかなでる。講師はテレビ出演などで活躍している吉田健吾さんが、東京から駆けつけた。

参加者はこの教室を企画した安達美登里さん（一之町）等の知り合い等も多く、南魚六日町からの参加者もいた。片貝からは親子で参加が多く、ハンダゴテを使いながら板に模様をつけ、ピアノ線を張り、完成した自分のカリンバで音色を楽しんでいた。



市政に対する一般質問
安達、吉原両議員登壇

市議会の市政に対する一般質問が3月17日に行なわれ、片貝町の二人が登壇、要旨は次のとおり。

▽安達総市議

㈠小出市長は2期8年間を7月で終えようとしている。星野前市長からバトンを受けた時は、公債費比率（借金のこと）が県下20市の中で最も高かったが、それを健全財政に建て直しながら、アイディアを事業の中に取り入れるプラス1のまちづくりを進め、総合福祉センター、総合体育館、ちぢみの里など大型事業もなし遂げた。大多数の市民が市長の続投を望んでいる。

㈡時水清掃工場のダイオキシンの測定は行なったか。

㈢4月からごみリサイクル法が施行となるが、取り組み体制は大丈夫か。

▽小出弘市長

㈠若い新たな市長を迎えることが望ましいと思うので、続投はしない。

㈡11月に実施したところ27ナノグラムで基準の80ナノグラムは下回ったが、新規建設施設は1ナノグラム以下と定められているので今後も抑制に努力する。

㈢リサイクルプラザの完成する平成10年からペットボトルの分別収集を開始する。

▽吉原正幸市議

㈠当市の屋内スポーツ施設はある程度充実、その効果か、市内中学校籠球と排球は県のトップクラスにある。反面屋外スポーツの冬季間練習場がない。片貝中旧体育館のクレーコート化する計画は、その後どうなったのか。

▽小出弘市長

㈠片貝中旧体育館のクレーコート化は、住民の意向により当面は床張りで使用、全面張り替えが必要になった時に、クレーコート化にするかどうかを検討することにしている。

大臣表彰祝賀会
五辺のそば作りが評価される

五辺集団転作組合（内藤和人組合長、86戸）は全国そば生産優良地区表彰（㈱日本蕎麦協会主催）において、団体の部で最高賞の農林水産大臣賞（一団体）を受賞したが、その受賞祝賀会が3月20日高梨振興会館で開催された。

小千谷市、JA片貝町を初め来賓多数が出席、一様に今回の快挙を讃えると共に、益々のそば作付けの拡大を語っていた。

会場にはそばコーナーを設け、小粟田の須坂屋主人が同転作組合が収穫したそば粉を使用のゆでたてのそばを提供、人気を呼んでいた。

同転作組合はとも補償を取り入れて組合員間の平等化を図り、水稲栽培に適した土地を保つためにブロッククローテーション方式を採用、きちんとした販路確保を目的に畑への作付けも行なうなど、多方面で努力とアイディアが認められ今回の大臣賞受賞となった。

なお、収穫のそば粉はその大半が須坂屋などに収められている。平成八年秋のそば販売額は千七十八万円だった。

ガレージセール
今年も頑張る

リサイクルかたかいでは、去る3月9日午前9時から正午まで公民館ホールで不用品交換会「ガレージセール」を開催した。湯呑み茶碗、ハンカチ、スキーなど多数が寄せられたが、それでも昨年よりは品数がやや少なかったとのこと。主催者は「今年5回目であり、続けることに意義があると思うので来年はもっとPRをして行ないたい」と語っていた。

会場では上ノ山にある授産所「さつき工房」の手づくりの小間物が展示され人気を集めていた。また子供達も和室でマンガ本やぬいぐるみを販売。来場の子供達には綿アメがふるまわれていた。

かたかい春秋

春到来。新緑泉施設・地域間交流センターが萌え出し、新年度を迎え、何連日の大盛況、武士の商法にならずにすんだどこかしら全ての物が動きの速さをろか、逆に様々な面で市に好影響を与えている。

▼これらの実績を踏まえ、当然三期目を狙うと思われた小出弘市長が、六月の市長選に出馬しないことを表明してしまった。

潔いと言ってしまえばそれまでだが、多くの市民を驚かせたのは事実だ。

六十四歳といった年齢から、四期目は狙わないだろうから、三期目は思い切った判断と態度で、是々非々で越権行為の目立つ市議や、ドロドロとした汚い物を正常化してくれるものと、ほのかな期待であった。▼何はともあれ、これからのなり行きに注目してゆきたい。要たのは星野前代議士の再登板の動きだ。当初は鉄工組合の〝迷言〟かと思っていたら、後援会の越星会がこれに乗り、星野氏要請に動き出したのだ。

リンカーンに感化され、国政を目指しそれを見事成し遂げた人が、市長にカムバックすることなど万が一にもないと思っていただけに、驚きも一入であった。▼何はともあれ、これからのなり行きに注目してゆきたい。要は独立自尊の精神をきちんと持ち、現在の市民、そして将来をも見越した住みよいまちづくりをしてくれる人であれば、何ら問題はないのである。

先生方の人事異動
小中両校の校長替る

教員の人事異動が行なわれ、片貝小学校と同中学校の両校長が替った。敬称略。

片貝小学校
〈着任〉（　）は前
▽校長＝岩田忠満（49、柏崎日吉小教諭）
▽教諭＝榊原紀子（栃尾東小）、高松豊（十日町六箇小）、福原律子（越路小）、安達明美（十日町名ケ山小）
▽主任＝韮沢まき（長岡東北中）
〈転出〉（　）は転任校
▽校長＝井口昌（60、退職）
▽教諭＝滝沢誠子（北魚泉水小）、前田久美子（越路小）、小池司（長岡千手小）
▽主任＝内山幸恵（若栃小）

片貝中学校
〈着任〉（　）は前
▽校長＝舘岡信男（52、長岡東中教頭）
▽教諭＝岩崎均（三条大島中）
〈転出〉（　）は転任校
▽校長＝酒井勝吉（53、南魚湯沢小）
▽教諭＝竹内三郎（長岡江陽中）

片貝支所長に金箱氏着任
他は変化なし

市は4月1日付で人事異動を発令、片貝支所の新支所長に金箱貞夫氏（前ガス水道局参事）が着任した。前支所長の渡辺友治氏は定年退職。他の職員の異動はなかった。

相崎定夫氏を祝う会盛況

先ごろ県バレーボール協会から優秀指導者として功労賞受賞の相崎定夫・長岡大手高校教諭（56、四之町）の祝う会が、3月22日夜かねしで開催され、体育協会など関係者約30名が出席、花束、記念品が贈られるなど日頃の労苦をねぎらった。

藤塚友絵ちゃん見事市長賞

明るい家庭の作文で

他に5名の小中学生が入選

平成八年度「明るい地域社会・家庭づくり」「家庭の日」に関する作文コンクール（市教委、青少年育成小千谷市民会議主催）の入賞作品がこのほど決定した。

片貝では市長賞の小学一年藤塚友絵を初めとして、六名の入賞者があった。

応募総数は昨年より五点増加の二百二点で、内訳は小学生百四十一（昨年百三十二）、中学生四十二点（同四十二）、一般・PTAの部が十九点（同二十三）。二次審査では一次審査を通過した作品を、内山隆介審査委員長（若栃小学校長）を初め十一名が審査にあたり、小学校低学年、同中学年、同高学年、中学校、一般・PTAの五部門で、それぞれ市長賞と教育長賞、奨励賞を選出した。

片貝小・中学校の入賞は次の通りである。

〔小学校低学年の部〕（応募数、四十七点）

▽**市長賞**＝藤塚友絵（片貝小一年）「おばあちゃんのたからもの」

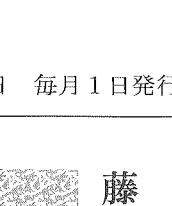
〔小学校中学年の部〕（応募数、五十三点）

▽**奨励賞**＝相崎訓史（片貝小四年）「続けるよ、ふろそうじ」

〔中学校の部〕（応募数、四十二点）

▽**教育長賞**＝黒崎亜沙子（片貝中二年）「お弁当の味」

▽**奨励賞**＝五十嵐真紀（片貝中一年）「私の夢」、神林真由美（片貝中一年）「お父さんの車椅子生活」、五十嵐未央（片貝中二年）「世界に目を向けて」



市長賞

おばあちゃんのたからもの

片貝小学校一年　ふじつか　ともえ

「おばあちゃんのたからものなあに。」

と、わたしがきくと、いつも

「ともえとあきひとだよ。」

と、いってくれました。

おばあちゃんは、わたしがおきてがっこうにいくまえに、かみをあみこみにしてくれました。とってもじょうずで、わたしのじまんの一つでした。かいしゃにいっているおかあさんのかわりに、いつもおいしいおりょうりをつくってくれました。わたしが、その中で一ばんすきだったのは、じゃがいもやおにくのはいったクリームシチューです。

「おいしいね。」

っていうと、おばあちゃんはニコニコしました。

でも、おばあちゃんはいません。七月にびょうきで、へんじがありません。わたしは、目をあけてはなしをしてくれないかなあ…。はやくげんきになって、うちにかえってこないかなあ…。などとおもいました。

びょういんにいったつぎの日、がっこうからかえると、しんせきの人が

「おばあちゃんが、かえってくるよ。」

と、いったので、うれしいきもちになったけど、みんながないていたので、おばあちゃんがたおれたのは、よるだったので、わたしは、ねていてなにもしりませんでした。おかあさんにきいて、びっくりしました。きのうまで、あんなにげんきだったのに、とおもいました。

びょういんへつれていってもらって、おばあちゃんを見たとき、からだじゅうにきかいがたくさんついていて、かわいそうだなあとおもいました。

「おばあちゃん。」

と、いって手をさわっても、へんじがありません。わたしは、目をあけてはなしをしてくれないかなあ…。はやくげんきになって、うちにかえってこないかなあ…。などとおもいました。

びょういんにいったつぎの日、がっこうからかえると、しんせきの人が

「おばあちゃんが、かえってくるよ。」

と、いったので、うれしいきもちになったけど、みんながないていたので、おばあちゃんは、しんだんだなあとおもいました。

おそうしきの日、おとうさんがないたのをはじめて見ました。わたしも、かなしくて、なみだがとまりませんでした。

おばあちゃんが、しんでしまったなんて、いまでもしんじられませんが、ぶつだんにあるしゃしんを見ると、やっぱりしんでしまったんだなあとおもいます。

生きているとき、おばあちゃんは、とってもおはなしがすきで、たいせつにそだてていました。ことしのふゆも、たいせつにそだてていたシンビジュームのはながさきました。そのはなは、まるでおばあちゃんがわらっているみたいにさいています。

おばあちゃんがいなくなって、かぞくが五人になってしまいました。わたしは、すこしさみしいとおもうけれど、おじいちゃんは、もっとさみしそうです。

「ともえとあきひとがたからものだよ。」

というおばあちゃんのわらったかおをこれからも、わすれません。

119番通報は早く、積極的に

消防本部から町民にPR

昨年暮から今年にかけて、片貝町で大きな住宅火災が二件発生した。このことに関連して小千谷地域消防本部から「119番通報の遅れ」と「119番通報回数が少ない」ことが顕著であるので、小紙を通してPRを、との依頼があった。

通報の遅れは即消防隊の出動の遅れにつながり、通報回数の少なさは情報収集の遅れにもつながる。特に隣近所の人は「誰かが119番通報したはずだ」と積極的に通報しないケースがあり、時としてそれが通報の遅れを招くことにもなるので、積極的に通報を、と協力を呼びかけている。

〈119番情報〉

㈠119番に局番はいらないので、受話器をとったらすぐに119とプッシュ（ダイヤル）。

㈡片貝町の84局の回線は2回線ある。よって同時に3台以上の電話が119番通報した時に通話中の電話も生じる。

㈢119番通報の要領は

①「火事です」

②「場所は片貝町〇〇町〇〇〇番地〇〇〇宅です。〇〇商店の近く（できるだけ分かり易い大きな目標物を）です」

③今の状況「窓から火が出ています」など。

④「私は〇〇〇（氏名）、電話は84―〇〇〇〇です」

㈣火災になると電話線が燃えて通報出来ない場合が多くある。その時は大声で近所に知らせ119番通報を依頼すること。

㈤簡易型形態電話（PHS）からの119番通報は、中継基地の関係で市街地の一部以外からは通じない。110番通報は県警本部に通じ、そこから地元消防本部に転送されるので時間がかかる。

山口恒所長 福祉を語る

第41回JA片貝町女性部総会記念講演会が、去る3月2日農協三階ホールで開催された。講演は一之町の山口恒・市社会福祉事務所長による「福祉入門イロハ」。要旨は次のとおり。

『福祉事業は範囲が広く苦労も多いが、やりがいのある仕事。少子化時代で高齢社会はますます深刻となっている。老人・児童・障害者・生活保護の四つ福祉とプラス民間福祉が大切。福祉に関する制度は種々あるので、良く知って活用することが大切である。家族の絆が日本の伝統であり基本である。親と子の絆が一番大切であり、家庭に小さな福祉が存在し、その輪が近所や親戚であり、さらに広がって地域福祉となる。JA片貝町女性部の皆さんを初め、大勢の町民に、今後共地域に密着した活動を期待している』

小川社長（二ノ町出身）基調講演

サンプラザの観光フォーラムで

小千谷にはホテルが必要

「小千谷市観光フォーラム'97（㈶小千谷市産業開発センター主催）」が去る2月26日サンプラザで開催され、片貝町二ノ町出身の小川欣一㈱新潟交通東京サービスセンター社長が基調講演会「旅行形態の変遷と展望について」とパネルディスカッションの助言者を務めた。

小川社長は「この業界の特徴は教科書がないこととヨコ文字が多いこと」と切り出し旅から旅行への移り変わり、大正から現在までの変遷を詳しく説明した後、今後の旅行の展望として

▽**旅行の二極化**＝マスメディアの発達と共に消費者が旅行になれてきたのでマイカーで共同温泉に入り国民宿舎などの安い宿に泊ったりマイカーの中に宿泊、日帰りなど出費を押えた「生活防衛型」と、高くとも一流を求める「高級志向」に分かれる。

▽**テーマの多様化**＝高校生の修学旅行でさえ、目的地で自由行動をとるケースが増えており、団体旅行が激減しており、小グループの旅行が増えている。その顕著な例として、首都圏の観光バスがドンドン減っている。

▽**プライバシー重視の旅行**＝旅館が敬遠され、プライバシーが守れるホテルが好まれる。ビジネスホテルが増えており泊食分離が進んでいる。

▽**オーダーメイド化**＝パック旅行から自分で作る旅行に変わっており、旅行の欧米化といえる。

▽**国内旅行の国際化**＝これからは外国人が日本を旅行することが多くなるだろう。サンプラザもこの点に力を入れたらいい。

以上の特徴を説明しながら「小千谷にホテルがほしい。きれいなまちづくりを心がけるべき」としめくくった。

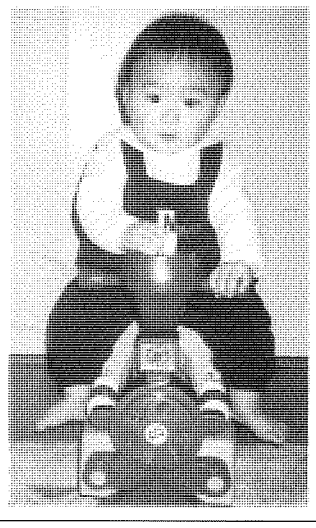
パネルディスカッションでは「片貝まつりをもっと有効活用すべき。長岡まつりではそれが成功している」との意見も出されていた。

片貝保育園児42名が小粟田の里をかわいい慰問

片貝保育園の42名の園児が、3月12日特別養護老人ホーム小粟田の里を慰問、入所の老人とほのぼのとした交流を図った。

園児は保育園で描いた絵を老人一人一人にプレゼント、部屋を訪れ握手をしたり歌を唄ったりと大活躍。老人達はとても嬉しいと感謝、中には感激のあまり涙ぐむ姿もあり、引率の先生方も「慰問してよかった」と満足気。

ハローベイビー



Q どんな子に育って欲しいですか

A 人を思いやり、だれからも好かれる子になって欲しいと思います。

〇宮路勇希ちゃん（稲場）

パパ武さん（35才）

ママゆかりさん（34才）

第一子長男

平成8年4月12日生

現在の体重10kg身長72cm

Q 名前の由来

A 勇ましく、大きな希望に向かって、歩んでほしいという願いを込めてつけました。

Q お子さんの様子

A いろんなものにつかまって、立つことが上手になり、はいはいも早くなって、動きが活発になってきました。

片貝 ヒューマンウォッチング

退職の井口校長再登場

平成7年8月号に登場願っており、今回2回目の井口島・片貝小学校々長（60）に再登板を依頼した。

3月一杯で定年を迎える井口校長を訪ねたのがその数週間前。いつもの笑顔で飾らない人柄そのままで、あれこれ思い出話しを語ってくれた。

片貝小学校には教諭として昭和48年から51年まで、と、今回校長として平成5年から赴任、合計7年間片貝の教育にたずさわることになる。片貝は朝陽館・耕読堂に代表されるように〝教育のまち〟として有名で、その伝統はいたるところに脈々として今に受け継がれている。しかし若い人達にとって、朝陽館の高まいな精神は基より、朝陽館の存在すらよく分からないのでは。〝教育のまち〟について町民全体で考え、そする。

退職後一番やりたいことはドライブ。3人の子供達は社会人となり現在は奥さんと2人暮し。苦労をかけ続けた？奥さんに恩返しを込めて日本縦断をすることが、当面の小さな夢。それもまとめては無理であろうから、一週間単位で部分的に敢行する計画という。

またかっての教え子が今年33歳、おそらく片貝まつりに招待されるだろうと今から心待ちにしている。一緒にまつりをフィーバー、酒を呑みかわしながら〝成長〟を目のあたりにしたいからという。

最後に「父母を中心に町民の皆様方に多方面にわたりお世話になりました。今後共宜しくお願いします」とこれだけは必ず書いて下さい、と注文があった。

の精神について見直してみる時期ではないか、と指摘する。それと前回も語っていたことであるが、しつけが極端に悪くなったと嘆く。これは片貝だけに限ったことではないが、一回目の赴任時と今回を較べるとその差に歴然とするとのこと。

教員生活38年間を振り返って、しみじみ感じることは〝私達の仕事は数十年後になって如実な結果となって表われることが多い〟ということ。若い頃受けもった子供達が成人して、社会人となりはつらつと活躍する姿を見る時、教諭の道を選んだ幸せを感じる。しかし、決して喜べる事だけではないのが悲しい現実だ。

38年間教えた中で、3人もが「自ら命を絶ってしまった」という報が届き、その度に「何故」「苦しみを乗り越える力を知恵を教えなかったのか」と自問自答